

『ありがとう』はまほうの言葉

岩田 理央

「おいしかったよ。ありがとう。」

この言葉は、お父さんと私と妹の食後の口ぐせだ。するとお母さんは、私の大好きな顔でうれしそうにわらう。

「おいしいって食べてくれる家族がいて、うれしい。」

と言う。私も、やさしいえ顔が見れて、おなかもいっぱい、しあわせな気持ちになる。

私のお父さんとお母さんは、いつもいろいろな時に、『ありがとう』を言い合っている。私にも何かあるたび、すぐに言うてくれる。

「かんしゃの気持ちを大切にしよう。」

とけっこんする時にやくそくしたそうだ。

小さいころから、

「ありがとうの言葉は、まほうの言葉だよ。人の心をほかほかあたたかくするんだよ。」と教えられてきた。

一年前、左うでをこっせつし、手じゅつをうけた。たいいんしてギブスをしたまま学校へ行った。左うでがまったく使えないので、すごくふあんだった。教室に入ると、友だちがえ顔をむかえてくれた。ほっとした。友だちがいつもたすけてくれ

て、こまったことは一つもなかった。毎朝しょうこう口で友だちがまっついていて、ランドセルをもっついていって、きがえも手つだててくれた。まちがえた字をけしゴムでけしてくれた。給食も用意してくれた。そのたびに、

「ありがとう。」

「ありがとう。」

「ありがとう。」

しか言えなかった。友だちは、え顔で何でもやってくれた。お父さんお母さんから教わったまほうの言葉のおかげで、私がつらい時、友だちにたすけてもらえたのだ。たくさんのやさしさとえ顔をもらった。その時、私の心は、じーんとあつくなり、ほかほかしているのに気がついた。「ありがとう」の言葉は、言う人の心も言われる人の心もあたたかくするんだな。

こんなにすてきな言葉を教えてくれた、お父さん、お母さんに、大きな声で『ありがとう』と言いたい。そしてこれから、家族や友だちやまわりの人に、このまほうの言葉を使って、みんなの心をほかほかにしていきたい。